

健

康

質問

母ががんになり、肺や骨に転移しています。抗がん剤治療がとても長く続いており、副作用がつからそうです。このまま楽しみがなくな、抗がん剤治療を続けることが母のためになるのか疑問に思っています。どうすればいいですか。

苦痛続く治療継続に疑問



武知 浩和
徳島大学病院がん診療
連携センター助教

回答

家族の治療には心配

が多いと思います。がんが他の臓器や離れた部位のリンパ節に転移した場合の多くは、治療の副作用を制御しながら長期的に治療することが目標になります。残念ながら治療に至らないケースもあります。従ってこの場合、患者を必要以上に頑張らせてはいけません。最近アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の考え方が普及し、患者の希望・意思に沿った治療計画の重要性が認められています。特に難治性がん患者には早期実践が理想です。

ポイントは①主治医が患者家族から信用を得る
②患者に正しく病状・治療目標を理解してもらう

患者の意思に沿う計画を



勧めます。ただ、生活の質とのバランスが重要で

ACPの実践が遅れるのは望ましくありません。私はこれまでの経験から痛感しています。真実は取り扱い注意。悪い知らせは患者にとってストレスになります。医師の伝え方は非常に大切です。医師はより良い対応をすべく工夫を重ねています。

③適切な緩和ケア・支援を多職種で行う④患者の希望・意思に沿う治療などです。

私は決して抗がん剤否定派ではありません。可能な限り積極的な治療を



主治医に気持ち伝える

まずは患者や家族の気持ちを正直に主治医にぶつけてみてください。全てはそこから始まります。苦痛に耐え続け無計画に治療を受ける時代は終わりました。休みながら治療し、抗がん剤減量による副作用軽減も選択肢になります。どんな状況でも緩和ケアを受ける権利は全ての患者にあります。緩和ケアを受けることも立派な治療です。積極治療だけが治療ではありません。困難でもやれることはたくさんあります。患者は人生を満足できるものにしてほしいです。患者の満足は家族にとって生きる光だと信じています。

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉
(平日午前8時半から午後5時まで)